

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(交流空間)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
1	創造支援センター運営事業	H24～	【入居状況】3/31現在 平成25年度 6 平成26年度 6 平成27年度 3 平成28年度 6 平成29年度 5	平成24年度の開設と同時に入居した6事業者については、3年の期間満了に伴い退去し、市内で事業活動を継続している。また、29年度末時点では5事業者が入居し、うち1人は、かがわビジネスモデルチャレンジコンペ2016において最優秀賞を受賞するなど成果を挙げている。なお、29年1月末で退去となった1室については、30年3月に開催した使用審査委員会において、30年4月からの入居者が決定した。	平成27年10月に策定した創業支援事業計画も踏まえ、事業を継続する。	継続	交流	産業振興課
2	ブリーザーズスクエア運営事業	H21～		南部3町エリアの活動交流拠点として、高松南部3町商店街プロジェクトや瓦町FLAGなどと連携し、にぎわい創出に努めた。H28年度よりことん瓦町駅2階コンコースにナビステーションを開設し、海外からの訪日観光客向け対応力の強化を図るとともに、平成29年度についても、更なる周辺拠点との連携等、にぎわいづくりや集客増加を目的に各種イベント事業や商店街の支援活動を実施した。	平成29年度末をもって、ブリーザーズスクエア運営委員会に対する補助金は終了し、一連の事業は終了となった。一方、ブリーザーズスクエアが担ってきた南部商店街エリアの活性化に関する役割については、まちづくり会社である高松南部3町商店街プロジェクトが引き続き実施するべく、新たな拠点・体制の整備を行っている。	完了		産業振興課
3	街なか居住事業 実施主体:株式会社高松南部3町商店街プロジェクト	H27～		平成28年度に、常磐町商店街にある空き物件をリノベーションし、若者の交流施設として活用することで、まちづくりの活動の主力となる若者を発掘し、商店街コミュニティの新たな担い手の育成につなげる。	まちなか居住事業の構想があったビルが取り壊されたことにより、一旦事業としては休止状態となっている。交流施設については、引き続きまちづくり会社を中心に活用を進め、まちなか居住事業を含め活性化の検討を進めていく。	休止		(産業振興課)
4	グリーン・ツーリズム推進事業	H21～	【参加者数】 平成25年度 157,041人 平成26年度 161,197人 平成27年度 170,729人 平成28年度 167,733人 平成29年度 178,099人	高松市グリーン・ツーリズム推進協議会が主体となり、体験型グリーン・ツーリズムを推進しており、参加者数も増加している。	今後、高松市グリーン・ツーリズム推進協議会への加入者を促進し、体験型グリーン・ツーリズムの参加者数を増加させていきたい。	継続	交流	農林水産課
5	ため池景観整備維持管理事業	H3～	【実施地区数】 平成25年度 17地区 平成26年度 17地区 平成27年度 17地区 平成28年度 17地区 平成29年度 16地区	良好な水辺空間を創出するため、ため池景観整備により整備された施設や樹木の維持管理を行っている地元土地改良区に対し、活動支援を行うことにより、周辺住民等の利用増進が図られた。	引き続き、該当するため池を管理する土地改良区に対し、本事業を継続し、憩いの場である、ため池の水辺空間の保全を支援するとともに、利用増進を図る。	継続	交流	土地改良課
6	高松城跡(玉藻公園)を活かした観光振興事業	H25～	平成25年度玉藻公園入園者数 178,776人 平成26年度玉藻公園入園者数 194,016人 平成27年度玉藻公園入園者数 218,258人 平成28年度玉藻公園入園者数 237,946人 平成29年度玉藻公園入園者数 228,385人	第2回瀬戸内国際芸術祭が開催された平成24年度から夜間ライトアップ事業、ミストシャワー事業を実施してきた。また、平成25年度から高松城跡和船体験事業、平成26年度から高松城鉄砲隊演武事業、平成27年度からは、パーチャル高松城事業を行っている。	高松城鉄砲隊演武、パーチャル高松城、和船体験事業を継続実施するとともに、宿泊客に高松の夜を楽しんでいただくナイト観光イベントを展開し、観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。	改善継続	交流	観光交流課
7	屋島活性化推進事業	H25～	【入込客数】 平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人	屋島関係情報ポータルサイト「屋島ナビ」の開設や芝生公園・多目的広場の整備及び維持・管理の実施などにより、屋島の特性や価値に対する市民の認識が高まり、屋島活性化に向けた機運が向上した。	山上拠点施設整備、水族館のリニューアル等のハード整備や夜景観光資源化等のソフト整備を進め、屋島を高松市のシンボルとして再生し、本市の観光を振興させ、交流人口の増加や産業振興につなげていく。	拡充	交流	観光交流課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(交流空間)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
8	屋島山上拠点施設整備事業	H28～		屋島山上拠点施設建設実施設計に着手するとともに、屋島山上拠点施設(仮称)排水放流管きよ実施設計を完成させた。	屋島山上拠点施設建設実施設計を完成させるとともに、屋島山上拠点施設整備に係る工事に着手する。	継続	交流	観光交流課
9	屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～	H24～	【観客数】 平成25年度 1,650人 平成26年度 1,450人 平成27年度 1,110人 平成28年度 1,020人 平成29年度 1,280人	平成24年度から実施しており、毎年7月～9月(夕夜景フェスタ開催期間中)の屋島山上で地元アーティストによる音楽ライブイベントを開催し、夜の屋島に賑わいを作っている。平成27年度からは、有名音楽家による、有料ライブを実施。屋島山上への誘客を促進した。	7月～9月(夕夜景フェスタ開催期間中)にライブイベントを実施する。来年度以降も地元アーティストや有名音楽家の出演により、屋島山上の夜に賑わいを創出させる。	継続	交流	観光交流課
10	高松まちかど漫遊帖	H18～	【開催回数/コース数/参加者数】 平成26年度 春・秋の2回開催 33コース 参加者数385人 平成27年度 春・秋の2回開催 47コース 参加者数562人 平成28年度 春・秋の2回開催 47コース 参加者数455人 平成29年度 春・秋の2回開催 48コース 参加者数469人	本実行委員会において、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」を春と秋の2回計画し、4月頃～6月頃までの期間において春編を、10月頃～12月頃までの期間において秋編を毎年開催している。	これまでと同様に、高松市・高松市周辺で、市民が主体的に歴史・観光・産業のまちづくりや商品づくりに資することを目的として、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」の制作・運営を中心とした、まちあるき事業等の各種事業を行う。	継続	交流	観光交流課
11	温泉をいかした塩江地域の観光振興事業	H28～		平成29年3月に塩江温泉郷の地域資源を活かした観光活性化のビジョンを定める「塩江温泉郷観光活性化基本構想」を策定した。	「塩江温泉郷観光活性化基本構想」に基づき、各種事業を実施し、塩江地域の観光振興に努める。また、道の駅しおのえエリア及び上西エリアの再整備方針を固める。	拡充	交流	観光交流課
12	塩江地域自立再生事業	H25～H27		今後は、「温泉をいかした塩江地域の観光振興事業」として、塩江温泉郷の地域資源を活かした活性化のビジョンを定める「塩江温泉郷観光活性化基本構想」に基づき、塩江地域の観光振興に努める。		完了		観光交流課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(交流空間)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
13	まちなかパフォーマンス事業	H22～	<p>【各事業での観覧者数】</p> <p>平成28年度</p> <p>TAKAMATSU MUSIC BLUE FES 20,870人</p> <p>サンポートオータムジャム 1,500人</p> <p>高松フラストリート 9,300人</p> <p>街クラシックin高松 1,670人</p> <p>たかまつ大道芸フェスタ 54,500人</p> <p>平成29年度</p> <p>TAKAMATSU MUSIC BLUE FES 26,370人</p> <p>サンポートオータムジャム 1,600人</p> <p>高松フラストリート 10,500人</p> <p>街クラシックin高松 1,020人</p> <p>たかまつ大道芸フェスタ 62,250人</p>	毎年、商店街・サンポート高松等において5事業を実施している。平成29年度は高松ミュージックブルーフェス2017(5/6～7)、フラストリート(9/3)、街クラシックin高松(9/16～24の土日祝日及び9/29)、高松大道芸フェス(9/30、10/1)、オータムジャム(10/9)の計5事業を実施し、台風の影響で開催日数が減った街クラシックin高松を除く全事業が前年度実績値より多い観覧者数となり、中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民に対し芸術にふれる機会の提供を行った。	「アート・シティ高松」の実現と中心市街地のにぎわいづくりのため、事業を継続実施する。	継続	交流	文化芸術振興課
14	アーティスト・イン・レジデンス事業	H27	<p>高松アーティスト・イン・レジデンス事業</p> <p>【応募数/選考数】</p> <p>平成27年度 20団体/3団体</p> <p>平成28年度 40団体/3団体</p> <p>平成29年度 15団体/3団体</p> <p>大島アーティスト・イン・レジデンス事業</p> <p>【参加者数】</p> <p>平成27年度 32人</p> <p>平成28年度 22人</p> <p>平成29年度 25人</p>	高松アーティスト・イン・レジデンス事業は、平成27年度より実施し、平成29年度は15団体の応募があり、選考委員会により3団体を選考し、事業を実施した。同じく大島アーティスト・イン・レジデンス事業も当該においての実施は平成27年度からで、夏休みに子どもサマーキャンプを実施している。	高松アーティスト・イン・レジデンス事業は、拠点施設がない中で実施した結果を踏まえ、より本市らしい事業の在り方を検討し、改善を図りながら実施を継続する。また、引き続き大島アーティスト・イン・レジデンス事業によりアートを切り口とした住民との交流を進め、大島の将来に繋がる振興を図る。	継続	交流	文化芸術振興課
15	古代山城屋嶋城跡城門遺構整備事業	H19～H27		整備工事後は、遺構の適切な保存管理に努めるとともに、埋蔵文化財公開活用事業において、屋嶋城跡をはじめ史跡天然記念物屋島の活用に関する事業を継続して実施する。		完了		文化財課
16	史跡・天然記念物屋島活用事業	H23～H27	<p>【見学者数】</p> <p>平成28年度(ただし、H28.3.19～H29.4.5) 41,014人</p> <p>【アプリダウンロード数】</p> <p>平成28年度(ただし、H28.3.19～H29.2.28) 942件</p>	本事業は28年度から埋蔵文化財公開活用事業になったことから、引き続き史跡天然記念物屋島を含め市内の埋蔵文化財の活用を図っていく。		完了		文化財課
17	高松城跡等整備事業	H10～		<p>26年度に地久櫓台石垣修理工事が完了するとともに、26年度から27年度にかけて西門料金所横のトイレ改修工事を、27年度から28年度にかけて重要文化財指定建造物の防災設備改修工事を実施した。</p> <p>26年度から桜御門石垣修理工事に着手し28年度に終了した。また、桜御門復元整備工事の実施設計を28年度に完了し、工事発注を進めている。史跡高松城跡の保存整備を進めることにより、玉藻公園来園者の見学環境を改善し来園者の増加に寄与した。</p>	30年度は、32年度完成を目指して歴史的建造物である桜御門の復元整備工事に着手するとともに、披雲閣の耐震補強のうち、大書院等の部屋の耐震診断を開始する予定であり、今後とも史跡高松城跡の適切な保存整備を進めていく。	継続	交流	文化財課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(交流空間)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
18	屋島陸上競技場再整備事業	H25～		平成25年9月に再整備工事に着手し、平成29年3月にしゅん工した。平成29年4月23日にリオオリンピック女子マラソン日本代表 福土加代子選手等をゲストに迎え、オープニングイベントを実施した。その後、屋島GENPEIリレーマラソン、中国四国パラ陸上競技大会、ドリームサッカー等のイベントを行った。	魅力あるスポーツ事業の展開やスポーツ振興のため、指定管理者と協力して取り組む。平成30年度には、日本パラ陸上競技選手権大会が開催される。	完了		スポーツ振興課
19	高松市立りんくうスポーツ公園整備事業			平成28年度より工事に着手し、平成29年度中には進入路・造成・人工芝舗装・防球ネット等の工事が完成し、現在、倉庫等の建設工事や電気工事等を行っている。	平成30年7月のしゅん工を目指して、工事を行う。平成30年8月にオープニングイベントを実施し、利用者の拡大と高松市のスポーツ振興のため、指定管理者と協力して取り組む。	継続		スポーツ振興課
20	ヨット競技場再整備事業			平成27年8月に実施設計を策定し、平成28年2月から再整備工事に着手しており、平成30年3月に工事がしゅん工した。	今後積極的な大会誘致を行い、利用者を拡大させるとともに、ヨット競技の知名度の向上させ、ヨット競技選手の育成強化も図りたい。また、瀬戸内海に面し、美しい多島美を望めるため、より多くの市民に訪れていただけるよう指定管理者と協力して取り組む。	完了		スポーツ振興課
21	高松市美術館サポートショップ事業	H24～	【参加店舗数】 平成24年度 39店 平成25年度 53店 平成26年度 69店 平成27年度 119店 平成28年度 147店 平成29年度 145店	平成25年度からは、新たに各サポートショップに「高松市美術館サポートショップ利用者割引券」を設置し、サポートショップ利用のお客様がその割引券を美術館に持参すると特別展観覧料が割引になる相互割引制度を導入した。平成27年度以降は参加店舗数が100店舗を超え、事業が周辺店舗に定着しつつある。	事業への関心を持っていただくため、協力いただいている高松中央商店街振興組合連合会への報告と案内を行う。事業の認知度をあげるため、観光案内所等へサポートショップマップ配布を行い、積極的に広報を行う。	継続	交流	美術館美術課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(食)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み (H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
1	さめきうまいもんプロジェクト 主催:さめきうまいもんプロジェクト 実行委員会		【さめきダイニング認定店舗数】(各年度末現在) 平成28年度 18店舗(県内では27店舗) 平成29年度 21店舗(県内では30店舗)  【さめきマルシェinサンポート 開催回数】 平成25年度 32回 平成26年度 38回 平成27年度 33回 平成28年度 41回 平成29年度 26回	【さめきダイニングのプロデュース】 県産食材を使用した幅広い料理を提供するとともに、県外からの観光客にも自信を持って勧められる情報発信力の高いレストランを「さめきダイニング」として認定している。認定店が行うフェア・ワークショップ等の活動を支援するとともに、これらの活動を情報発信し、県産食材や香川の食の認知度向上を図った。  【さめきマルシェinサンポートの開催】 サンポート高松地区において、日曜日に欧風産直市(マルシェ)を開催し、生産者が消費者と対面で、旬の県産野菜・果物や水産物の加工品などの販売、県産食材を使った料理を提供することを通じて、香川の食の素晴らしさを伝えるとともに県内での認知度向上・販路拡大を図った。	【さめきダイニング】 認定店において、メニュー開発やフェア・ワークショップを通じて県産食材や香川県の認知度向上に取り組む。  【さめきマルシェinサンポート】 引き続き、地域の食の素晴らしさをPRするマルシェを開催し、県産食材の認知度向上に取り組む。 なお、平成30年度は、月1回(第1日曜日)の開催予定である。	継続	食	(産業振興課)
2	アスパラ大騒ぎ 主催 アスパラ大騒ぎ実行委員会	H25~	【来場者数】 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 約2,700人 平成29年度 約5,700人 平成30年度 約8,800人 カウントなし	地域で生産されるアスパラガスを核にして地産地消の価値や地域活性等、多様な価値を食や芸術を通して創出、共感する事業として以下の3つをテーマに実施してきた。 ・香川県産野菜“アスパラガス”の価値共有 ・市民参加型イベントによるにぎわい創出 ・地元飲食店の振興	来場者及び出店希望者も増加し、定着したイベントとして根付いてきたことは大変うれしいことだが、運営体制には課題が多く、今後については、事業規模の拡大ではなく、食や地域を通じた魅力的で質の高い事業内容と、継続実施できる体制整備等の検討を考えたい。	改善継続	食	(産業振興課)
3	高松ブランド農産物育成支援事業	H15~	【高松産ごじまん品関連イベント実施回数】 平成25年度 46回 平成26年度 49回 平成27年度 46回 平成28年度 47回 平成29年度 36回	高松市農産物ごじまん品推進協議会が主体となって実施している。平成29年度については、事業実施者の要望が少なかったため、イベント実施回数が減少しているが、各種イベントを実施し、食育・地産地消・農産物のブランド化を推進している。	引き続き、高松市農産物ごじまん品推進協議会が主体となり、関係機関等と連携して、食育・地産地消・農産物のブランド化を推進していく。	継続	食	農林水産課
4	人・農地プラン推進事業	H24~	【人・農地プランの作成地区数】 平成25年度 30地区 平成26年度 31地区 平成27年度 32地区 平成28年度 32地区 平成29年度 32地区	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・活動を支援し、地域の担い手の位置づけや農地集積を推進してきた。	「人・農地プラン」の作成地区数については、概ね目標数を達成できたことから、今後は、プランの見直しや活動を支援し、地域の担い手確保や農地集積を推進していく。	継続	食	農林水産課
5	遊休農地有効活用事業	H21~	【荒廃農地の解消面積】 平成25年度 6.1ha 平成26年度 1.6ha 平成27年度 0.2ha 平成28年度 1.0ha 平成29年度 0.0ha	平成25年度から「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」により、耕作放棄地で利用可能な農地の調査を行うとともに、国の耕作放棄地再生利用緊急対策事業を利用し、平成25~28年度で8.9haを、平成21年度から延べ14.3haの荒廃農地の解消を行った。	農業者の高齢化等による農地の貸付け希望の増加により、担い手農家が新たに耕作放棄地を再生してまでも規模拡大を図る必要性が低下しており、平成29年度は国の事業を活用した耕作放棄地再生利用の取組がなかった。今後は、優良農地確保対策事業に統合し、引き続き荒廃農地の解消に努める。	統合		農林水産課
6	市場DE自由研究事業	H20~	【実施回数/参加者数】 平成25年度 212人 平成26年度 208人 平成27年度 202人 平成28年度 194人 平成29年度 180人	毎年安定した参加希望者があり、募集人員を超えて抽選になることも多々あるので、小学生親子を対象とした市場見学を核にした生鮮食料品等の消費拡大としてのPR事業の一環としての役割を十分に果たしている。	基本的な内容は現行通り継続していき、場内の見学や市場に関する講座の内容をより充実したものにしていきたい。	継続	食	市場業務課
7	たかまつ市場フェスタ事業	H19~	【実施回数/来場者数】 平成25年度 17,000人 平成26年度 17,500人 平成27年度 18,000人 平成28年度 18,500人 平成29年度 19,000人	実施ごとに来場者が増加し、昨年は悪天候であったにもかかわらず多くの市民に参加していただいたことを考えると、高松市中央卸売場での最大級のイベントとして定着しており、市民に卸売業者等の市場関係者の役割や流通の仕組みを広く周知するとともに、生鮮食料品等の流通の円滑化と消費拡大を図るため、市民と卸売市場の交流の機会としての役割を十分に果たしている。	基本的な催し物は現行通り継続していき、ステージパフォーマンス等のイベントでより多くの市民が参加できるように企画し、市民参加の場を増やすことよって、より交流の機会の場を確保していきたい。	継続	食	市場業務課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(食)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み (H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
8	市場特別開放事業	H22～	【実施回数/来場者数】 平成25年度 6,900人 平成26年度 5,800人 平成27年度 5,000人 平成28年度 5,200人 平成29年度 5,100人	通常は、登録された業者しか購入できない高松市中央卸売場の生鮮食品等を市民にも購入できるように開放することで、市民に親しまれ、活力ある市場づくりとしての役割を十分に果たしている。	9月に実施される2回目以降は、物販の販売だけではなく、青果を中心として、卸売業者の社員のワークショップ的な催しを開催していく予定である。	継続	食	市場業務課
9	食文化を活かした観光振興事業	H28	平成29年3月19日 高松うまげなもんまつり開催 来場者数 4,500人	「高松うまげなもんまつり」として、サンポート高松大型テント広場にて、地元のオリーブ牛、オリーブ豚、さぬきコーチン、高松卸売市場直送野菜を提供したバーベキューを実施。ステージイベントでは、野菜ソムリエによる食に関するクイズや「益人プロジェクト」による盆栽PRを実施。体験型ブースでは、苔玉作りワークショップ、うどん打ち体験を実施。来場者及び市民に対して、本市の食と文化の魅力を広める機会を創出した。		完了		観光交流課
10	EAT BEAT ! in 高松	H27	春編 平成27年5月14日 84人 夏編 平成27年8月9日 57人 秋編 平成27年11月1日 518人(マルシェ来場者含む) 冬編 平成28年1月9日 45人	新たな方法等で高松市の「食」をPRし、観光及び産業の振興につなげていく。		完了		観光交流課
11	高松の食・観光魅力発信ガイドマップ制作事業	H26、H27	平成26年度 ガイドマップ2,000部制作(高松市制作) 平成27年度 ガイドマップ40,000部制作(夏・秋・冬・春号各10,000部) (高松の食・観光魅力発信ガイドマップ制作委員会制作)	ビジネスホテルが多いという高松市の特性を活かし、「ビジネスホテル宿泊客に商店街等で高松の食を楽しんでいただく」という流れは、観光振興や産業振興に有効な取組と考えるので、引き続き民間事業者等の協力をいただきながら、施策を展開していく。		完了		観光交流課
12	たかまつ食と文化のフェスタ	H26、H27	平成26年度来場者数 45,000人 平成27年度来場者数 48,000人	今後は、「食文化を活かした観光振興事業」として、より効果的な事業を展開していく。		完了		観光交流課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(生活工芸)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
1	AJI PROJECT 主催：高松市牟礼庵治商工会	H20～	【販売実績】 平成25年度 約500点 平成26年度 約600点 平成27年度 約1,500点 平成28年度 約1,800点 平成29年度 約2,200点	商品説明が出来る店舗にしか商品を置かないなど、ストーリーを含めた商品の提供にこだわっており、県内外の百貨店催事や商工会等への出展のほか、各種新聞・雑誌・テレビ等でのPRを行った。	伝統工芸の現代生活への応用・転換事業として、商品の改良、新たな商品開発を実施するほか、海外へのプロモーションやテストマーケティングにより、ブランド力を高め販売実績に繋げることを目指す。	継続	工芸	(産業振興課)
2	伝統的ものづくり企画展示セミナー	H27～	【セミナー参加者数】 平成27年度 46名 平成28年度 15名 平成29年度 45名	伝統的ものづくりに携わる人の学びの場の創出を行い、次のアクションへと繋がるような事業やネットワークの構築を目指し、異業種間の繋がり場の提供することで、事業者支援・事業環境の整備等を目的としてセミナーを実施した。	今後は、より広義での異業種間の繋がり場の提供や、伝統的ものづくり事業者を始め、事業者を取り巻く周辺に携わる人の学びの場の創出を行い、次のアクションへと繋がるような事業やネットワークの構築を目指す。	継続		産業振興課
3	伝統的ものづくり観光資源PR事業	H28		単年度の取組みであったが、当該事業実績を踏まえて、伝統的ものづくりの付加価値を高めていき、販路拡大や来訪者の満足度の向上を目指す。		完了		産業振興課
4	香川漆芸認知度向上事業	H28～		優れた技法をもつ香川漆芸の認知度向上と若手漆芸作家支援のため、若手作家の漆芸美術展や、有力ギャラリー等の招聘を行い、香川漆芸の魅力発信とともにブランド化・販路開拓の足がかりとなる事業を実施した。	香川漆芸の技法を用いた装飾を施した製品を制作してハイブランド誌上で情報発信を行うほか、国内最大級の国際的なアートフェア東京に出品し、香川漆芸のPRを行う。また、平成30年度には香川と台湾の漆芸文化交流展を開催し、文化交流を図る。	継続		産業振興課
5	高松盆栽振興事業	H28～	【盆栽輸出登録申請者数(EU)】 平成28年度 19人 平成29年度 18人	高松盆栽の総合的振興を図るため、国内需要の拡大・輸出の拡大・産地基盤の強化・「高松盆栽の郷(さと)」づくりを推進する各種事業を実施してきた。	引き続き、高松盆栽の総合的振興を図るため、国内需要の拡大・輸出の拡大・産地基盤の強化・「高松盆栽の郷(さと)」づくりを推進する各種事業を実施していく。	拡充	工芸	農林水産課
6	匠のおもてなし事業	H24～	【開催回数/来場者数】 平成25年度 (夏・秋開催) 7,082人 平成26年度 (夏開催) 5,103人 平成27年度 (夏・春開催) 6,731人	特産品振興の面では、今後、市外への効果的な仕掛けとして発展させ、併せて、個々の特産品をつなぐ仕掛けとして、歴史や文化とともにPRを進めていく必要がある。 また、今後は新たな「ナイト観光イベント事業」を行うことにより、高松城跡(玉藻公園)の観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。		完了		観光交流課
7	BONSAI Café	H22～	【開催回数】 平成25年度 (夏・秋開催) 平成26年度 (夏開催) 平成27年度 (夏・春開催)	BONSAIと食や音楽等をつなぐ空間の創出により、盆栽を自然と身近に感じたり、盆栽を愛でる空間を楽しんだり体感する新しいスタイルの提案であり、さらに市内外へのPRや情報発信の産地の魅力とともに行う必要がある。 今後は、新たな「ナイト観光イベント事業」を行うことにより、高松城跡(玉藻公園)の観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。		完了		観光交流課
8	瀬戸内生活工芸祭 主催：瀬戸内生活工芸準備室	H24、H26		H26年度の開催では、丸亀町三町ドーム下で開催した三市の物産展や、県立ミュージアムでの企画展、香川県庁見学ツアーなど、他のイベントと連携し、県外からの来場者をまちなかへ誘導した。 瀬戸内生活工芸祭としてはH26年度で終了。今後は、かたちを変えて続けていく予定。		休止		(産業振興課)

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(祝祭)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
1	高松盆栽大会	H26	【総入場者数】 1万6千人	今後も、高松盆栽の知名度の向上及び販売促進を図るため、盆栽大会の開催等を検討していく。		休止		農林水産課
2	さぬき高松まつり	S41~	【来場者数】 平成25年度 来場者数 650,000人 平成26年度 来場者数 620,000人 平成27年度 来場者数 650,000人 平成28年度 来場者数 620,000人 平成29年度 来場者数 610,000人	平成27年度には、第50回を迎え、これを記念して彦根・水戸・金沢市からも踊り子を迎え、また、花火大会においても、過去最多の12000発を打ち上げ、賑わいを創出した。	今後も高松市を代表する夏まつりとして実施し、高松市中心部の賑わい創出につなげていく。また、公式ホームページやフェイスブック等を用いて、今まで以上にPRをしていく。	改善継続	交流	観光交流課
3	高松秋のまつり仏生山大名行列	H6~	【観客数】 平成25年度 来場者数 130,000人 平成26年度 来場者数 150,000人 平成27年度 来場者数 145,000人 平成28年度 来場者数 145,000人 平成29年度 来場者数 117,000人	歴代高松藩主の菩提寺である法然寺への藩主の墓参を再現した絢爛たる大名行列をメインとして実施し、主会場である高松南部地域の賑わいを創出した。 平成29年度で25回目の開催となり、大名行列の殿様役には女優の木内晶子さん、姫様役には高松ゆめ大使が扮している。 まつり期間中の観客数は、117,000人と高松を代表する秋のまつりとして定着している。	今後も高松市を代表するまつりの一つとして実施し、9月に同地域へ移転する「みんなの病院」とも連携し、高松南部地域の活性化につなげていく。	改善継続	交流	観光交流課
4	むれ源平石あかりロード 主催:むれ源平石あかりロード実行委員会	H17~	【来場者数】 平成25年度 75,000人 平成26年度 52,000人 平成27年度 75,000人 平成28年度 80,000人 平成29年度 75,000人	牟礼・庵治地域の石産業のPRも兼ねて、石あかりのライトアップや企画展、コンサート等を実施した。	H30年度も夏から秋にかけて開催予定。牟礼・庵治地域の石産業及び地域活性化につなげていく。	継続	工芸	(観光交流課)
5	香川ウォーターフロントフェスティバル	H26、H27	【来場者数】 平成26年度来場者数 35,364人 平成27年度来場者数 52,011人 平成28年度来場者数 20,877人 平成29年度来場者数 31,062人	平成26年度から、県と共同して、サンポート高松を舞台に、エンターテインメント性や話題性が高く、アート色の強いイベントの実施に加え、「真夏の夜の夢」と題し、音楽の生演奏や国内外のパフォーマーによる大道芸などのパフォーマンス、地元ならではの食の提供を行うことにより、幅広い層の観光客の誘致、宿泊を伴う滞在型観光の推進やアート・シティ高松のブランディングに努めた。	今後も、サンポートエリアの夜のにぎわい創出に取り組み、幅広い層の観光客の誘致、宿泊を伴う滞在型観光の推進やアート・シティのブランディングに努める。	継続		観光交流課
6	瀬戸内海国立公園指定80周年記念行事「屋島山上おもてなしイベント」	H26	【入込客数】 平成25年度 421,985人	昭和9年3月に屋島を含む「瀬戸内海国立公園」がわが国最初の国立公園に指定されてから80周年を迎えたことを記念し、屋島山上集いの広場(県木園)において、瀬戸内海国立公園指定80周年記念行事キックオフセレモニーを開催した。		完了		観光交流課
7	瀬戸内国際芸術祭	H22、H25、H28	【トータル来場者/外国人の割合/経済波及効果】 2010 938,246人 1.1% 2013 1,070,368人 2.6% 132億円 2016 1,040,050人 13.4% 139億円	3回目となった瀬戸内国際芸術祭2016は、春会期・夏会期・秋会期の3期にわたり、計108日間開催された。平成29年度はART SETOUCHIとして継続作品が公開され、本市として各事業の広報を行ったほか、実行委員会が主体となり、瀬戸内国際芸術祭2019の実施計画を取りまとめた。	平成30年度もART SETOUCHIとして継続作品が公開されるので、本市として、各事業の広報活動を行うとともに、瀬戸内国際芸術祭2019に向けて実行委員会や市内各島と連携・調整しながら円滑に準備を進める。	継続	交流	文化芸術振興課



## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(祝祭)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
8	サンポート高松トライアスロン	H22～	【参加選手数／ボランティアスタッフ数／観客数】 平成25年度 458人／749人／(未測定) 平成26年度 467人／676人／(未測定) 平成27年度 394人／703人／(未測定) 平成28年度 484人／640人／14,800人 平成29年度 687人／1,016人／38,500人	瀬戸内海と高松市中心市街地を会場に、日本全国・世界から幅広い選手が参加できる日本屈指の都市型トライアスロン大会「サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」を開催し、参加者及び市民の心と体の健康づくりを推進するとともに、本市及びサンポート高松のPRなど、活力あるまちづくりの促進を図った。平成25年度(第4回大会)からは、オリンピックディスタンスとなる51.5kmのコース並びに参加定員を500名までに拡大し、実施している。また、平成29年度(第8回大会)では、各国オリンピック出場への選考ステップとなる「アジアカップ」を開催し、世界のトップアスリートが参加した。	海外を含めたメディアへの露出や、東京オリンピックの事前合宿誘致に繋げることを目的として、東京オリンピックが開催される2020年までは「アジアカップ」を継続開催する予定である。	継続	交流	スポーツ振興課
9	高松国際ピアノコンクール	H17、H21、H25、H29	【大会参加人数／観客数】 2006 306人 / 11,250人 2010 243人 / 7,550人 2014 239人 / 7,180人 2018 332人 / 10,230人	国際音楽コンクール世界連盟加入後初めてとなる、第4回高松国際ピアノコンクールが平成30年3月14日～25日まで開催され、過去最多の応募があった。開催年度以外は、学校訪問リサイタル、審査員による演奏会、審査員によるマスタークラスなどの高松国際ピアノコンクール推進事業を継続して実施している。	引き続き、より市民に親しまれ、地域に育まれていくコンクールとなるよう、既存事業との連携も検討しながら高松国際ピアノコンクール推進事業に取り組んでいく。	継続	交流	文化芸術振興課
10	かがわ山なみ芸術祭	H27、H28	【来場者数】 平成28年度 3,526人	瀬戸内国際芸術祭開催年に、香川県の間部を舞台としたエリアの特性を活かした芸術祭で、本市は塩江町において実施された。瓦町FLAGにて平成28年4月9日～17日にイベントが開催され、10月29日～11月13日に芸術祭が開催された。	本市は実行委員として参加しており、今後については、他市の状況も踏まえ検討する。	継続	交流	文化芸術振興課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(国際会議)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
1	海外誘客促進事業	H23～	【高松空港の国際線利用者数】 平成25年度 89,883人 平成26年度 125,241人 平成27年度 153,522人 平成28年度 184,976人 ※平成28年度については、香港線の利用実績を含めない。 平成29年度 279,420人(香港線を含む)	香川県観光協会に補助金を交付し、県と連携して、高松空港と航空路線で結ばれている海外の都市を対象としたプロモーション活動を展開している。また、海外において本市キャンペーンを行うことにより、海外における本市のブランドイメージの定着と海外からの誘客促進を図った。	今後も海外からの観光客を誘致するため、引き続き香川県と連携し、本市の観光プロモーションを行う。また、観光案内所の機能強化に対しても香川県観光協会に補助金を交付し、受入態勢の強化を図る。	継続	交流	観光交流課
2	訪日観光客誘致事業	H23～	【県内の外国人延べ宿泊者数】 平成25年度 43,090人 平成26年度 95,830人 平成27年度 142,710人 平成28年度 290,260人 平成29年度 444,870人(H29.4.1～H30.2.28) ※平成29年度は二次速報値	訪日観光客誘致を推進するため、(公財)高松観光コンベンション・ビューローに補助金を交付し、訪日観光客誘致スタッフを配置するなど、本市の観光プロモーションを行った。	中国・韓国・台湾・香港からの旅行者を誘致するため、引き続き本市の観光プロモーションを行うとともに、今後の観光客の増加が見込まれる東アジアや欧州について、市場調査やキャンペーンを実施する。	継続	交流	観光交流課
3	アート・シティ高松推進事業	H20～	【閲覧数】 平成25年度 50,475ページビュー 平成26年度 90,366ページビュー 平成27年度 170,502ページビュー 平成28年度 257,675ページビュー 平成29年度 (委託会社の変更を伴うサイトリニューアルのためアクセス数データなし)	本市への観光客の増加及びイメージアップを図ることを目的として、外国人観光客に向けて海外版インターネット広告「アート・シティ高松」を発信した。なお、平成26年度にサイト全面リニューアルを行い、コンテンツの追加を始め、リスティング広告からバナー広告に変更する等の改善を行った。その後も、モデルコースやアクセスページの追加を行い、サイトの充実を図った。	従来の高松市外国語版観光サイト「アート・シティ高松」から「Experience Takamatsu -Sense of Wonder-」にリニューアルし、観光客の目線に立った有用な情報の提供、SNSとの連携、スマートフォンやタブレット端末への表示最適化を行うことにより、外国人観光客の誘致促進及び高松市での滞在への結びつけを図る。	継続		観光交流課
4	G7香川・高松情報通信大臣会合	H28	【各国代表団人数(代表含む)】 217名	情報通信大臣会合開催に向けて整備した市内中心部の情報通信網を活用して、外国人観光客等の市内滞在時間の延長及び消費拡大を図るほか、開催地としてのブランド力を生かし、国際会議や企業コンベンション等の誘致を推進する。		完了		観光交流課
5	国内誘客促進事業	H26～	【高松空港の国内線利用者数】 平成25年度 1,457,539人 平成26年度 1,609,477人 平成27年度 1,631,974人 平成28年度 1,627,574人 平成29年度 1,673,845人	首都圏から空路で約1時間という利便性について広く周知を行うため、高松空港・羽田空港間の国内定期路線を有する航空会社と連携し、情報発信や観光PRイベント等を実施した。また、SAにおけるリーフレット設置、東京モノレールの車両内広告掲出等を行い、PRを行った。	首都圏における本市の一層の知名度向上と、本市への誘客を図るため、東京モノレール及び京急電鉄の車両内に本市のPRポスターを掲出する。	継続	交流	観光交流課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(国際会議)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
6	観光情報発信・受入態勢整備推進事業		<p>○デジタルサイネージのタッチ数 平成28年度(4月～3月):357,324回 平成29年度(4月～3月):243,158回</p> <p>○Wi-Fiの利用件数 平成28年度(4月～3月):788,940件 平成29年度:(4月～3月)1,075,381件</p> <p>○高松旅ネットのページビュー件数 平成26年度(12月～3月)143,436件 平成27年度(4月～3月)618,226件 平成28年度(4月～3月)834,967件 平成29年度(4月～3月)794,247件</p>	<p>H28. 3に多言語対応のデジタルサイネージを市内5か所に設置し、H30. 3にはこれまでの利用状況等を考慮し、JR高松駅及び高松空港に設置していたデジタルサイネージをジャンボフェリーの船内に移設した。また、公衆無線LAN環境(フリーWiFiエリア)をJR高松駅周辺と高松中央商店街等に整備し、平成28年度も引き続き保守運用を行った。</p> <p>その他インターネットによる情報発信の重要性に鑑み、本市の観光情報を広く発信し、来訪の促進を図るために運営している観光ホームページをH26年12月に「高松旅ネット」としてリニューアル、H27年8月に「高松みなと散歩」を閉鎖した。平成28年度からは、高松中央商店街の店舗を対象に外国人への対応力向上を目的とした、出前講座を実施した。</p>	<p>デジタルサイネージの運用及び公衆無線LAN環境整備については、H30年度以降も継続して実施していく。また、今後の観光政策に、両事業から得られるデータをどのように活用していくかを検討する。</p> <p>ホームページは、観光客増加及び満足度向上を目的として、本市のイベント情報等をできる限り早い段階で効果的な情報発信を行う。外国人受入環境整備事業については、2年間実施した出前型の講座事業は終了。今後、外国人対応における課題を整理し、大学生やゲストハウス事業者等の関係者と意見交換をしながら、事業の展開を検討する。</p>	継続	交流	観光交流課
7	第4回日仏自治体交流会議	H26	【参加自治体数】 日本側28自治体、フランス側17自治体	会議を開催することにより、本市の魅力や国際会議を開催できる十分な施設機能と能力を有していることを国内外に発信できた。		完了		観光交流課
8	障がい者スポーツ推進事業	H28～	【大会誘致数】 2大会	障がい者スポーツ大会の誘致等を通じて、障がい者のスポーツ人口の増大と競技力の向上に取り組むため、平成29年7月に中国・四国パラ陸上競技大会をリニューアルオープンした屋島競技場へ誘致し、四国で初めて開催した。	平成30年9月に日本パラ陸上競技選手権大会を開催し、中国・四国パラ陸上競技大会についても平成31・32年度に開催が決定していることから、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催まで、地方からもその気運を高め、これら障がい者スポーツ大会の実施に併せて、啓発イベントや選手の事前合宿誘致・交流イベント等を開催し、「おもてなしの心」を取り入れた心のバリアフリーを進めていくことで、共生社会の実現と障がい者スポーツの普及・発展を目指す。	継続	交流	スポーツ振興課
9	ミラノ万博盆栽トップセールス事業	H27	【盆栽輸出登録申請者数(EU)】 平成26年度 20 平成27年度 19 平成28年度 19	ミラノ万博でのトップセールスの実施は、27年度限りであるが、国内外での販路開拓は今後も機会を捉えて実施していく。		完了		産業振興課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(こども)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
1	伝統的ものづくり学校巡回教室	H26～	【参加者数/回数】 平成26年度 404人 / 14回 平成27年度 360人 / 14回 平成28年度 280人 / 6回 平成29年度 138人 / 4回	高松の歴史を伴う伝統的ものづくりに関する教育を推進し関心を深めるとともに、次代を担う子どもたちへの伝統的なものづくりへの理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。	伝統的ものづくりの職人を希望のあった小・中学校へ派遣し、話を聞いたり、作品や作業風景を見たりする場を設ける。次代を担う子どもたちの自分自身の住んでいるまちに対する「誇り」や「愛着心」を醸成させることができるような事業となるよう、継続して実施する。	継続	工芸	産業振興課
2	伝統的ものづくり親子体験教室	H26～	【参加者数/回数】 平成26年度 111人 / 4回 平成27年度 242人 / 10回 平成28年度 294人 / 10回 平成29年度 230人 / 8回	親子で地域の歴史と合わせて発達した伝統的ものづくりを学び体験することで、地域の資源としての文化やものづくりについての理解と関心を深める普及啓発事業として実施した。	伝統的ものづくりへの理解とともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、継続して実施する。	継続	工芸	産業振興課
3	高松夏休み親子探検隊チラシ制作事業	H26～	【掲載事業数】 平成26年度 9 平成27年度 54 平成28年度 82 平成29年度 50	各課が夏休み期間中に小学生の親子を対象として開催する講座をまとめたリーフレットを作成し、市内の全小学生へ配布した。	平成29年度対比で掲載講座数を増やし、こどもの多様な興味関心に応えることが出来るよう内容を充実させたい。	継続	こども	産業振興課
4	屋島子ども愛着心醸成事業	H25～	【入込客数】 平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人	子ども向けパンフレットを作成し、屋島に対する子どもたちへの愛着、誇りを醸成した。市内の全学校に配布をした。(小学3年生対象。)	市内小学生を中心に屋島に対する愛着・誇りを醸成する。	継続		観光交流課
5	学校巡回芸術教室	S54～	【参加者数/回数】 平成25年度 8,360人 / 20回 平成26年度 7,097人 / 20回 平成27年度 12,283人 / 21回 平成28年度 9,876人 / 21回 平成29年度 7,983人 / 19回	市内の小・中学校を対象として、生の優良芸術を鑑賞又は体験する機会をつくり、児童・生徒の情操教育の一助とするとともに、健全育成に役立っている。 平成28年度は10メニュー21校、29年度は11メニュー19校で実施した。	事業を継続し、情操教育の一環として役立する。	継続	こども	文化芸術振興課
6	能楽教室事業	H11～	【参加者数/回数】 平成25年度 2,172人 / 6回 平成26年度 2,965人 / 6回 平成27年度 1,555人 / 6回 平成28年度 3,617人 / 6回 平成29年度 3,243人 / 6回	市内の小・中学校を対象として、生の優良な伝統芸能を鑑賞又は体験する機会をつくり、児童・生徒の情操教育の一助とするとともに、健全育成に役立っている。 平成27年度以降、能楽・囃子・狂言の3メニューを実施しており、平成29年度の鑑賞児童は6校で3,243人であった。	事業を継続し、情操教育の一環として役立する。	継続	こども	文化芸術振興課
7	劇団四季ミュージカル「こころの劇場」	H22～	【観客数/回数】 平成25年度 4,985人 / 1公演6回 平成26年度 5,323人 / 1公演6回 平成27年度 5,362人 / 1公演6回 平成28年度 5,303人 / 1公演5回 平成29年度 4,997人 / 1公演5回	『瀬戸・高松広域定住自立圏(文化芸術鑑賞機会等の提供)』の事業として、平成30年2月20-22日の3日間で、高松・土庄町・小豆島町・三木町・直島町・綾川町・さぬき市より小学校72校の小学6年生及び教員を招待し、『ガンバの大冒険』の公演を実施した。	舞台劇の鑑賞をとおして、児童の情操を涵養することを目的に事業を継続実施する。	継続	こども	文化芸術振興課
8	0才からのコンサート	H26～	【観客数/回数】 平成25年度なし 平成26年度 463人 / 年2回 平成27年度 593人 / 年4回 平成28年度 559人 / 年4回 平成29年度 641人 / 年4回	0歳から3歳くらいまでの子どもとその保護者(妊婦を含む)を対象に、親子で一緒に楽しめるクラシック・コンサートの鑑賞の機会を提供し、乳幼児をもつ保護者へのひとときの安らげる時間を提供するほか、乳幼児には幼い頃から音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の創造に関心を深めることを目的に実施した。平成29年度は年4回開催し、観客数は過去最多であった。	生の音楽鑑賞機会から遠ざかりがちな子育て世帯を対象とするこのコンサートは、来場者アンケートで多くの方から満足したとの回答を得ているほか、募集開始早々に定員に達するなど人気が高いことから、引き続きコンサートの開催を継続し、より多くの市民が音楽に触れる機会を提供する。今後の開催に当たっては、市民の利便性等も踏まえ、様々な会場を検討する。	継続	こども	文化芸術振興課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(こども)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
9	地域密着型トップスポーツチームの活用	H23～	【教室開催回数】 平成25年度教室等 2回 その他 13回 平成26年度教室等 2回 その他 9回 平成27年度教室等 7回 その他 3回 平成28年度教室等 3回 その他 4回 平成29年度教室等 4回 その他 9回	カマタマーレ讃岐など4つの地域密着型トップスポーツチームを活用し、学校訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待など、子どもたちに直接選手等に触れ合う機会を提供することにより、子ども達の向上心や創造力の育成を図った。	地域密着型トップスポーツチームを活用し、引き続き、学校訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待などを実施していく。また、今後においても、子どもたちの向上心や創造力の育成を図っていくため、県や地域密着型トップスポーツチームと連携を図りながら、様々な手段を通じ、一人でも多くの子どもたちに選手等と触れ合える機会を提供していく。	継続	こども	スポーツ振興課
10	ものづくりふれあい教室事業	H12～	平成25年度参加数 829人 回数 25回 平成26年度参加数 861人 回数 22回 平成27年度参加数 1,223人 回数 29回 平成28年度参加数 1,025人 回数 28回 平成29年度参加数 651人 回数 22回	市内の小・中学生を対象に、手作りで人の心にふれるものづくりにチャレンジしながら古き良きものを見直し、いかにものが大切かを体験する機会を提供している。 平成29年度は17校で、洋裁部門、和裁部門、マスコット部門の3つの部門から8メニュー22回実施した。	事業を継続し、情操教育の一環として役立つ。	継続		文化芸術振興課
11	高松市美術館リニューアル(こどもアートスペース)	H27～	【こども対象イベント・講座への参加人数】 平成27年度 537人 平成28年度 1,238人 平成29年度 1,913人	改修により「こどもアートスペース」を開設した。休館中はリニューアルオープンに向け、告知を兼ねた教育普及イベントを市内他施設を借り、未就学児はじめ様々な世代を対象に計9回の開催するほか、出前講座として児童クラブ等に出かけた。また、平成28年3月末のリニューアルオープン後も商店街との連携企画など様々なプログラムを開催。特に、こどもアートスペースでは、“ふらっとアート”として、幅広い世代の方が気楽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供した。	「こどもアートスペース」を活用し、未就学児はじめ様々な世代等に親しまれる教育普及プログラムを積極的に展開していく。	継続	こども	美術館美術課
12	芸術士派遣事業	H21～	【派遣個所数】 平成25年度 27か所(保育所20、こども園2、幼稚園5) 平成26年度 35か所(保育所29、こども園1、幼稚園5) 平成27年度 40か所(保育所31、幼稚園9) 平成28年度 40か所(保育所27、こども園1、幼稚園12)	・様々な表現活動を通して、表現の楽しさ・面白さを体験することで、子どもたちの意欲や好奇心が養われている。 ・子どもの表現活動の「過程」や「個性」を認めあうことで、子どもの自尊心や自己肯定感が育まれている。 ・保育士等が専門性の高い芸術士とともに協働で教育保育を展開することにより、異業種間での学び合いが教育保育の質の向上に繋がっている。	今後も、芸術士を保育所等へ派遣し、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるように導くとともに、指導方法の共有化や人材の確保に努める。	継続	こども	こども園運営課

## 「高松市創造都市推進ビジョン」策定後の取組状況について(もっともっと創造的プロジェクト)

No	事業名	実施年度	ビジョン策定からH29年度末までの数値で見る活動実績	ビジョン策定からこれまで(H29年度まで)の成果	今後の取組み(H30年度以降)	今後の方向性	第2次ビジョンの位置付け	担当課
1	高松メディアアート祭	H27	【参加者数】 平成26年度 プレ祭 5,863人 平成27年度 3,028人			休止		文化芸術振興課
2	山間部、島しょ部でのサテライト・オフィス	未定		塩江町では、誘致の前提条件である「光ファイバー化の整備」、「施設を受け入れる施設の確保」や「地元との調整」など、徐々に環境が整っているが、現在のところ、「サテライト・オフィス」誘致について実際の動きまでには至っていない。また、女木島・男木島については、光ファイバー化が整備されていない状況である。	塩江町において、小学校跡施設等の本市施設の利活用や空き家のオフィス活用の可能性等を見ながら、効果的な「サテライト・オフィス」の誘致策を検討する。	継続		産業振興課
3	市民活動センターのクリエイティブ化	H24～	【市民活動センター総利用者数】 平成25年度 3,180人 平成26年度 3,218人 平成27年度 15,429人 平成28年度 19,752人 平成29年度 23,977人	平成24年8月に四番丁スクエア内に市民活動センターを開設。27年10月IKODE瓦町にサテライトとして瓦町市民活動センターを開設し、活動拠点の拡充を図った。28年4月には2センターを統合し、IKODE瓦町に市民活動センターを開設。市民活動団体等を支援する中間支援組織として、また協働によるまちづくりの推進に資する拠点としての機能強化を図った。これにより市民活動の活性化や協働事業の充実等が図られ、相談、会議室及び機器利用等の利用件数ほか総利用者数も年々増加する傾向にある。	市民主体のまちづくりを基本理念とし、多様な主体が地域社会を支える新しい仕組みづくりや人材育成のため、市民活動センターの機能やセンター職員のサポート能力の充実を図り、協働事業を推進する。	継続	交流	男女共同参画・協働推進課
4	企業の育成・誘致による経済活性化	H21～		本市経済の活性化や雇用の確保を図るため、企業誘致専門員や企業誘致助成制度等を活用し、企業情報の収集や発信に努めるほか、平成29年度には、専門部署として立地・創業・イノベーション支援室を新設するなど、積極的な企業誘致に努めている。	平成29年度に新設した立地・創業・イノベーション支援室において、国・県や金融機関、よる支援助拠点等の関係機関との連携を強化し、更なる企業誘致や企業立地を促進する。	拡充		産業振興課